

# 続・六周年迎えましたで、医療コンソーシアム

「青

木さん、青木さん」

どないした、東京のおっちゃん。始まって早々に。

「今、青木さんのお姉さんと、お話ししてたんです。会場に入るとき『まいど、まいど』と大声で挨拶してる青木さんの後ろで『この人の後について歩くの恥ずかしいわあ』と言うから、『身内やないですか』と言うたら、えらい受けて笑ってました」

あんなあ「ものづくり医療コンソーシアム六周年記念式典」に、わざわざ東京から来て、初めて会った僕の身内と、人をネタにして遊ばんといってくれる。ホンマにもう……。

## 病は音楽でも治る アマデウス流実験！

おちよくる人がいますから、はよ講演の要旨に入りましょう。記念講演その一は「あのピタゴラスも主張した！病は音楽でも治るアマデウス流実験！」です。演者はアマデウス大西さんです。

アマデウス大西さんは、ピアニストで、ピアノ&トークを行ない、なおかつアマデウス音楽院付属笑学校を、奈良県各地で開催しています。つまり、世代を越えて音楽と笑顔を提供しているマルチ音楽家です。

アマデウスいうんは、作曲家のW・アマデウス・モーツァルトからとった名前やそうです。

アマデウス大西さんは、古代ギリシャの哲学者であるピタゴラスが「病は音楽で治せるのでは」と言ったことに注目します。哲学者は人間が具合が悪いときは、魂が壊れたときである。魂を壊した人間に影響を与えるのは音楽に違いない、と考えたそうです。

今から二五〇〇年前ですから、病を治すためには祈るだけだった。そして、祈るときに今で言うとお経のような音楽っぽいもので治そうとしていたんだろう、とアマデウスさんは言います。このような推測を、現代の科学で証明をしようと、最近、身体から赤血球を取り出して、それに音楽をかける実験があったそうです。結果として、なんとクラシックで赤血球は七倍増えて、ロック音楽では二三倍も増えたといっています。

これによって、音楽は人間の血液にも影響するということがわかりました。

アマデウスさんは、かつて高校で音楽を教えていました。現在は、六〇代から八〇代の幅広い年齢の方の合唱団を、指導しています。

加えて、身体の弱かったお母さんが、六〇才になってシャン



◎(株)アオキ取締役会長

## 青木 豊彦

(あおき・とよひこ)



1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。

ソンを習い、一度倒れても、入院中もレッスンすることで、見事に退院して、教えてもらっているプロ歌手のステージの前座を務めたということ。

リユーマチの年配の女性が、毎日のピアノレッスンで、歩くことさえできなかったのが、杖もいらなくなったことなど、身近に起こった例を引いて、音楽の効用を説いていました。

### 認知症の予防には ナッツ、ブルーベリー、オリーブオイルです

さて、記念講演その二は「物議 認知症は予防できるのか?」と題して、大畑建治先生の講演です。

大畑先生は、大阪市立大学大学院医学研究科長・医学部長です。そして我が(一財)医療コンソーシアムの理事長でもあります。

先生は認知症の中でも、その半分を占めるアルツハイマー型に絞って話を進めました。

なんでもアルツハイマーというのは、神経の中にアミロイドペータというゴミがたまって神経が死んでしまう。そして脳が萎縮して認知症になるとのことでした。

現在、日本では六五才以上の四人から五人のうち一人、つまり軽症と重症合せて七〇〇万人の認知症患者がいるそうです。

断るときは、僕がしよっちゅうやる、人の名前を忘れるなんかは認知症やないそうです。例えば僕が何年か経って、六周年?そんなんやったかなあ。言うたら要注意です。

それはともかく、軽度はまだ手が打てるそうです。

ただゴミ取るクス

リはまだまだだそう

で、むしろ早期発見

が重要だそうです。

そのためには、まず

バイオマーカーとい

うもんを使って調べ、

さらにPETで測

定する、という手順

が必要だとのこと。

肝心なのは予防をどうしたらいいかです。

大畑先生は、運動、禁煙、オリーブオイルやナッツ、ブルーベリーと言った地中海式食事を薦めていました。睡眠も大切だそうです。

いやあ。ためになりますなあ。僕なんか考えると、タバコは吸わへんし、酒も飲まへん。食事管理されてるし、認知症の改善にも効くという運動は、太陽を浴びながら——そう太陽もええそうです——ゴルフをする。

まさに理想的な生活です。

「青木さん、子供の頃、勉強せんとチャンバラばっかやってたそうですな。お姉さんから聞きました。ひよっとして、刀をクラブに変え、サムライという言葉にこだわるのも、幼児体験が抜けないのと違いますか」

また、東京のおっちゃんが最後に出てきて余計なことを言っています。



●高齢者の運動は認知症に有効と大畑教授